

京都府立丹波支援学校自立活動部だより

すてっぴてっぴ



今回は子ども達が日々取り組んでいる『自立課題』について紹介します。『自立課題』とは意味ややり方を自分で理解し、人の指示や援助を受けないで一人で行える課題のことを指し、個々の発達課題、学習課題に迫るための指導の一環として取り組んでいるものです。

「一人で行える」課題をとおして、どのような力を育むことができるのでしょうか。「自立課題」をとおしてつきたい力や取り組む主な目的についてお伝えします。



a) 自立を育てる

自分で課題を完成して終える能力は、家庭や地域、学校や職場等さまざまな場面で、将来にわたり必要なスキルです。

(一つ一つに大人の指示がないと動けないのでは、「指示待ち」といった受け身の姿勢になってしまいます。)

※ 「できた」という達成感もてることで、自信につながり、次への意欲や自立的行動が高まります。

自立課題学習とマンツーマン学習の場を分けることで、より効果的な指導につなげることができます。初めて取り組む課題についてはマンツーマンで丁寧に課題のやり方や意味を教え、自立課題学習に移行していくことで、本人にとって負担なく取り組んでいけるようになります。



b) 認知や言語、微細運動等の基礎スキルを育てる

自立課題に出てくるマッチングや分類等の課題は、認知的、言語的スキルを学習する上で基礎となるものです。

物と属性、言葉との対応関係を学習することで、意味の理解を促すことができます。また、物を入れたり、組み立てたり、分解したりする課題は、微細運動（指先の巧み性）や、目と手の協応の発達を促すことができます。



c) 将来の職業スキルの基礎を築く

分類、マッチング、組み立て、分解等のスキルは、将来さまざまな仕事を行う上で基礎となるスキルとなります。

また、ある一定の手順に従って課題を自分一人で完成させることは、少ない支援で仕事を行うことにつながります。



d) 余暇活動への応用

自立課題は、将来の余暇活動につながり、自由時間を楽しむことができるようになるものも設定します。また、問題行動の予防にもつながります。



書籍紹介

